

2016 年度参加型技術講演会・ワークショップ作品講評

コーディネーター：立命館大学・大窪健之

事業概要：

参加型技術講演会のワークショップは、参加者が学生も含めてまんべんなく 6 班に分かれて議論しながら、未来のプロジェクトを提案するという形式で取り組みました。

議論の要は、相反しがちな観光と防災をいかに推進し融合させるかという点に設定されました。対象地域はくじ引き順に代表者が選ぶ形式で決定され、作業に 2 時間 20 分の時間を設定しましたが、どの班も非常に高い集中力を持って活発な議論と、熱心なプレゼンテーション作成作業に取り組んでいました。作業終了後には、各班で質疑を含めて 10 分の持ち時間の中でプレゼンテーションを行い、最後には参加者の挙手による互選で「最優秀賞」が選出されました。後日運営委員会において討論を行い、厳正な審査の上で、これとは別に「夢土木賞」の選定を行いました。

最優秀賞（2 班・舞鶴市）：

最優秀賞に輝いたのは、舞鶴市を対象に取り組んだ 2 班です。今回、候補地に指定したうち、唯一日本海側に位置する地域でもあり、どのように特徴を捉えて提案に結びつけるかが注目されました。結果、近年モダンな佇まいで注目を集める赤煉瓦倉庫群と、軍事マニアにはたまらない自衛隊の軍艦が並ぶ舞鶴港を起点とし、海岸ルートをたどって日本三景の一つ、股のぞきで有名な天橋立を経由して、そこからは内陸へ入って農村風景を楽しみながら、歴史的町並みが美しい加悦重要伝統的建造物群保存地区へ至るという、サイクリング・ツーリングルートが提案されました。3 つの観光拠点を結ぶこのルートをナビゲーションするアプリも提案されており、その中に災害時対応のための情報も配信する仕様とされました。沿岸ルートをたどることもあり津波のリスクが気にかかる場所ではありますが、危険性の低いルートが選ばれたとのこと。そのためもあってか、フロアからの地元住民の意見として「自転車で巡るには高低差が多すぎるのでは？」という指摘もありました。ともあれ、限られた資源をツーリングルートで結びつけることで変化を楽しめるストーリーを提案したことは、観光振興の側面から評価される場所ではないでしょうか。

一方で防災の観点からは、ソフトウェア対策に頼る一方でハードウェア対策への対応が十分には提案されていません。例えば土砂災害対策のための砂防ダムをサイクリングルートと融合させることで、高低差の一部を解消するようなアイデアなども含まれれば、さらに完成度が高まったのではないかと思います。投票の際に和歌山市を対象とした 5 班と同票のため、決選投票となった末に最優秀賞を勝ち取りましたが、京都や大阪、神戸や奈良の様な観光資源の豊かな個性のある地域と異なり、むしろ厳しい状況にある舞鶴や和歌山をあえて選んで、実直に伸び代で勝負する戦略が、今回のテーマでは奏功したのかも

知れません。

夢土木賞（3 班・大阪市）

夢土木賞とは、前述したように互選による正統派と言える最優秀賞に対して、運営委員会として独断と偏見で個性の光る作品もピックアップすべきと言う提案から、急遽新設された言わば特別賞です。結果として審査会議においてほぼ全員一致で選出されたのは、大阪市を対象とした 3 班の作品でした。この班は、大阪市内は公共交通網の密度が高く一見移動に便利に思われますが、実際には地上交通と地下交通の乗り換え時等、意外に長距離を歩かなければならない点に着目し、モノレールでこれらを繋ぐ新たな空中環状線を建設するという大胆な提案を行いました。あわせて大阪市域は平野部が多く津波発生時の危険性が指摘されることから、この空中環状線そのものを高所難場所として活用することで人的被害を低減しようという発想です。既に都市開発の進んだ過密地域にどうやって建設するのか、その莫大な予算はどうやって確保するのか、そもそも本当に移動距離は縮まるのかなど課題は山積しています、併せて提案されていた地元の「おばちゃんコンシェルジュ」を、観光案内人兼避難誘導者として位置づけるという、大阪の特徴である世話好きな住民性を前面に押し出した企画提案の破壊力と、「持ち物はアメ」というローカルなネタに寄り切られる形となりました。